

市町村長特別セミナー～災害に強い地域づくり～

平成28年度市町村長特別セミナー～災害に強い地域づくり～を、11月1日、2日の2日間の日程で開催しました。42名の市町村長・副市町村長の皆様に加え、管理職特別セミナー～災害に強い地域づくり～の研修生72名も合同講義という形で全国各地からご参加いただきました。今回のセミナーでは、「災害に強い地域づくり」を進めるため、これまでの災害の教訓を踏まえ、危機管理のあり方、防災・減災への取組などをテーマに、防災・危機管理の専門家として第一線で活躍される方からご講演をいただきました。

初日は、「業務継続計画（BCP）の重要性と策定のポイント」と題して、東北大学災害科学国際研究所教授の丸谷浩明先生から、近年の災害事例と行政の対応を踏まえ、最初に策定すべきBCPのポイント、実効性確保と維持・改善等について、BCP策定等の動機付けとなるお話をいただきました。参加者からは、「講演内容はとても整理されたものでシンプルに理解できるものであった」、「BCPは策定済みだが、重要ポイントを示してもらい、今後の更新に活かしたい」などの感想をいただきました。

次に、「見たくないものも目をそらさず大震災に備える」と題して、名古屋大学減災連携研究センター長・教授の福和伸夫先生から、震災と歴史の関係の興味深いお話、また、震災の際に庁舎の構造等が抱える現実や問題点について、率直なお話をいただきました。参加者からは、「講演内容が具体的かつ説得力があった」「今後の庁舎の建替えや耐震化を進める中で、色々考えるヒントをもらった」などの感想をいただきました。

また、1日目の締めくくりとして、フルート荒川洋氏、チェロ植木昭雄氏、ピアノ佐藤勝重氏の三重奏による「ミニコンサート」が催されました。みなさんに馴染みのある選曲で、曲にまつわるエピソードなども交え、素晴らしい演奏を披露していただき、文化による地域活性化手法の参考となりました。参加者からは、「すばらしい一言。もう少し魅了されていたかった」などの感想をいただきました。

2日目は、「大災害への備え～過去に学んで、未来に備える～」と題して、神戸大学名誉教授、兵庫県立大学防災教育研究センター長の室崎益輝先生から、改めて、災害大国である我が国の現実と過去の災害から得られた教訓をお話いただき、また、災害時の業務のアウトリーチとトリアージの重要性等についてご講演をいただきました。参加者からは、「過去に起こった大災害から得られる教訓をどのように活かしていくべきかよくわかった」、「民間、コミュニティの活用の重要性がよく理解できた」などの感想をいただきました。

最後に、「災害時におけるメディアとの連携～戦略的な知識と情報の普及を目指す～」と題して、新潟大学危機管理室、災害・復興科学研究所（兼務）教授の田村圭子先生から、ICTの活用から災害対策本部の体制、そしてマスコミ対応まで幅広いご講演をいただきました。参加者からは、「災害時の適切な情報収集が重要なこと、また、これを活用することの大切さを深く認識した」、「情報共有を大切にし、的確な判断組織の確立を目指したいと思う」などの感想をいただきました。

業務継続計画 (BCP)の重要性と策定のポイント

東北大学
災害科学国際研究所教授
丸谷 浩明先生



見たくないものも目をそらさず大震災に備える

名古屋大学
減災連携研究センター長・教授
福和 伸夫先生



ミニコンサート

フルート
荒川 洋氏

チェロ
植木 昭雄氏

ピアノ
佐藤 勝重氏



大災害への備え～過去に学んで、未来に備える～

神戸大学名誉教授、
兵庫県立大学
防災教育研究センター長
室崎 益輝先生



災害時におけるメディアとの連携～戦略的な知識と情報の普及を目指す～

新潟大学危機管理室、
災害・復興科学研究所（兼務）教授
田村 圭子先生



